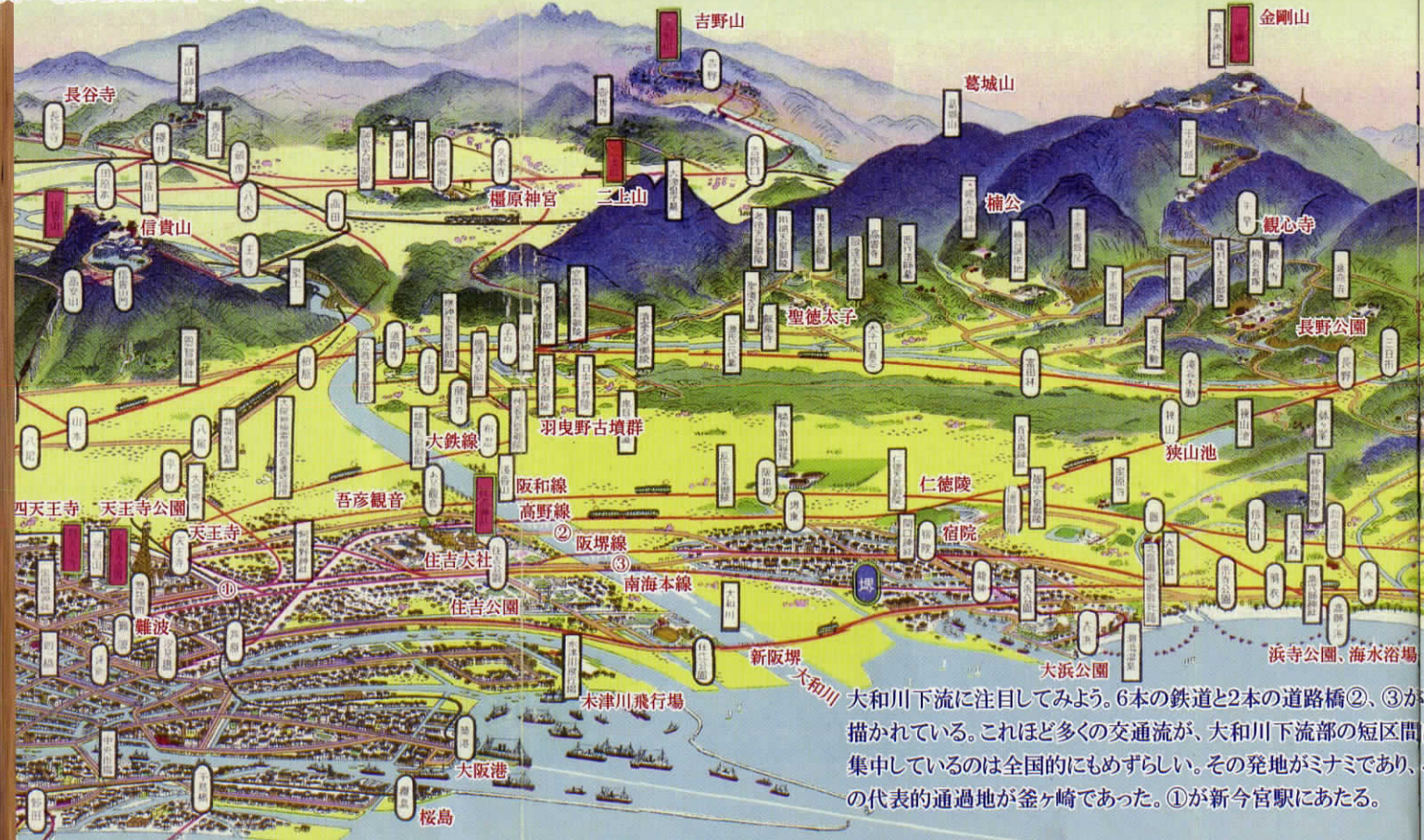




関西は私鉄王国といわれる所以が、この鳥瞰図によく表れている。本図で描かれている大阪南部だけでも国宝や重要文化財の宝庫であり(大阪は国宝で全国4位、重要文化財で5位)、私鉄は、高野山や吉野山、河内和泉の山沿いの寺社仏閣や名所旧跡に加え、海水浴場、遊園地、城下町等に誘客目的に敷かれた系譜を有する。東京とは大違ひである。この宝庫を目当てに資本は鉄道に利潤を見出した。四囲鉄道に囲まれた釜ヶ崎形成の隠れた背景なのである。
「大阪府交通略図」1932年 大阪府鳥瞰図 吉田初三郎、日文研所蔵地図データベースより

神社仏閣や名所旧跡どっさりが関西を私鉄王国にした

「大阪府交通略図」1932年（昭和7年）大阪府鳥瞰図 吉田初三郎 より / 解説・凡例 水内俊雄（大阪市立大学都市研究プラザ教授）

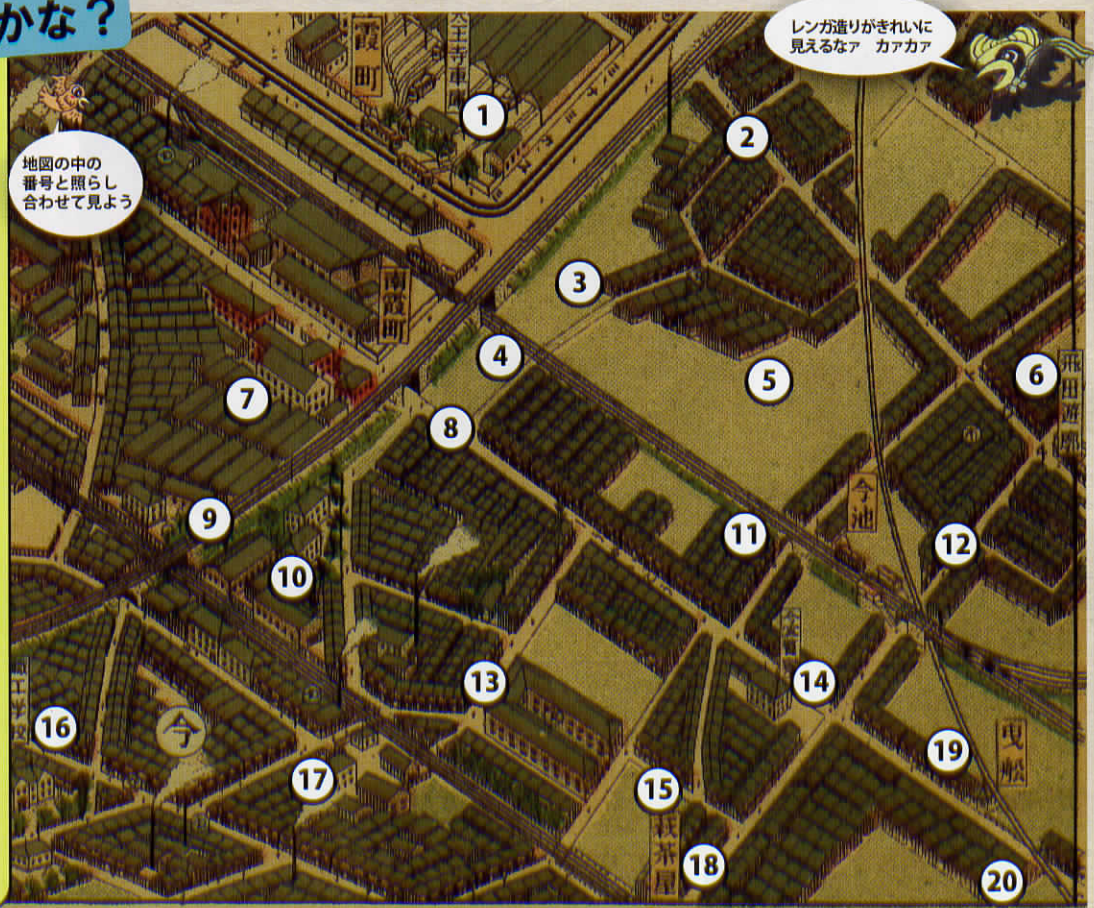
なるほど。それで新今宮駅周辺は交通の要衝なのかア。

住吉の高燈籠（たかどうろう）も見えるビ〜

大正13年の「大阪市パノラマ地図」で、大正後期の今宮町探訪

昔はなにがあったのかな？

- 現在の建物との位置関係
- ①ドンキホーテ
 - ②飛田本通前商店会アーケード
 - ③太子交差点
 - ④阪堺線チンチン電車踏切
 - ⑤元大阪市立更生相談所
 - ⑥飛田新地
 - ⑦星野OMO7建設中(※右頁参照)
 - ⑧釜ヶ崎銀座通り(紀州街道)
 - ⑨新今宮駅(当時駅はない)
 - ⑩あいりん総合センター
 - ⑪通称小便ガード
 - ⑫今池本通商店会アーケード
 - ⑬もと萩之茶屋小学校
 - ⑭西成警察署
 - ⑮西成市民館
 - ⑯今宮工科高校
 - ⑰花園公園
 - ⑱南海萩ノ茶屋駅
 - ⑲西成消防署海道出張所
 - ⑳三角公園

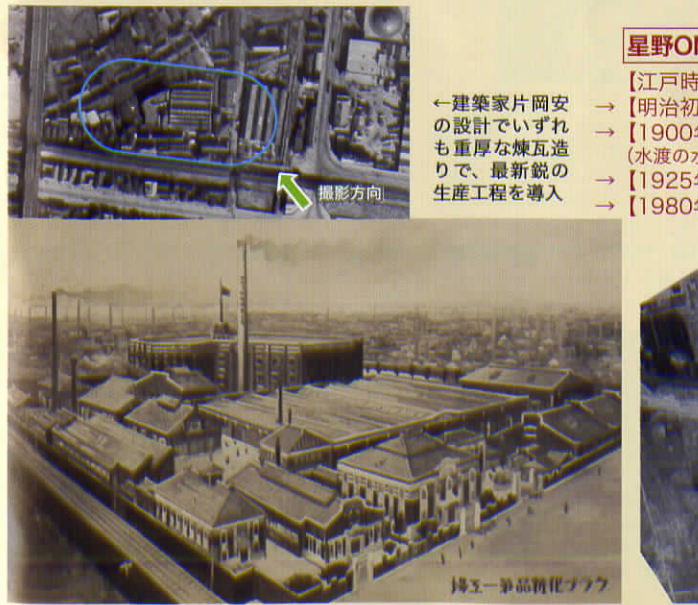


※②は化粧品製造の中山太陽堂(現クラブコスメチック)の本店工場。煉瓦造りの赤色が特徴的。詳しくは右側参照。 所蔵：西成情報アーカイブ

⑦は、現在「星野OMO7」が建設中(黄色➡)



この水崎町の地は、以前化粧品製造の中山太陽堂の本店・工場があった。東洋一の近代的化粧品工場と言われた(1917年)



星野OMO7の敷地名はかつては釜ヶ崎だった

【江戸時代】摂津国西成郡今宮村字釜ヶ崎、水渡
→【明治初期】大阪府西成郡今宮村字釜ヶ崎、水渡
→【1900年】大阪市南区水崎町(水渡の水と釜ヶ崎の崎を取って、水崎町と新町名)
→【1925年大改訂】大阪市浪速区水崎町
→【1980年住居表示】大阪市浪速区恵美須西3丁目

時代の流れを反映した広告ポスターや商品ラベルの数々→文化創造企業の走り

1914年には、学者と実業家の隔たりない提携を、ということで、原料の基礎研究を行う「**中山化学研究所**」を当地に設立。一メーカーとしては過ぎたるものと噂された。

←奇跡的に全焼を免れた米軍空襲(1945年6月4日)



今ここによみがえる、あいりん総合センター敷地周辺のかつての風景

こ、これは
もはやスクープや！

あいりん総合センターの南部分・市営住宅地
の半世紀以上前の写真から

発見1:戦前の木造長屋が焼けずに残っていた
発見2:遊園地があったの、ご存知ですか？



注目したきっかけは、1945年3月14日の大空襲の4日後に撮られたと思われる、この写真を見たことにある。釜ヶ崎は鉄筋以外の建物は全焼したと思っていたが、赤丸の今の萩之茶屋小学校の北側に、焼失を免れた家屋があったのである(工藤洋三『米軍の写真偵察と日本空襲』より)。

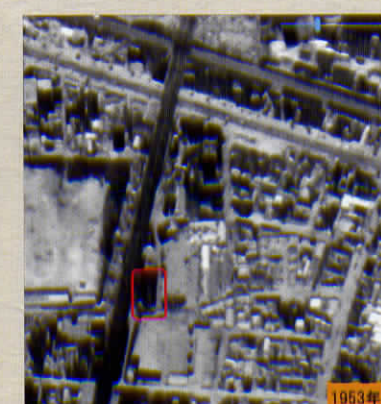


上写真の建物が焼失を免れた2階建て長屋であり、現在の第1住宅の南西端となる。背景の南海高架を抜けるガード下は今と同じ雰囲気、手前右に遊園地の区画の境界線が見える。左側は写っていないが萩之茶屋小学校になる。撮影は1960年代後半と思われる(旧市更相保管写真より)

こ、これはすごい
発見だっピー



1948年撮影の米軍空中写真では、2棟長屋がくっきりと見え、東と北の焼け野原に早くも家屋が新築されていることがわかる。



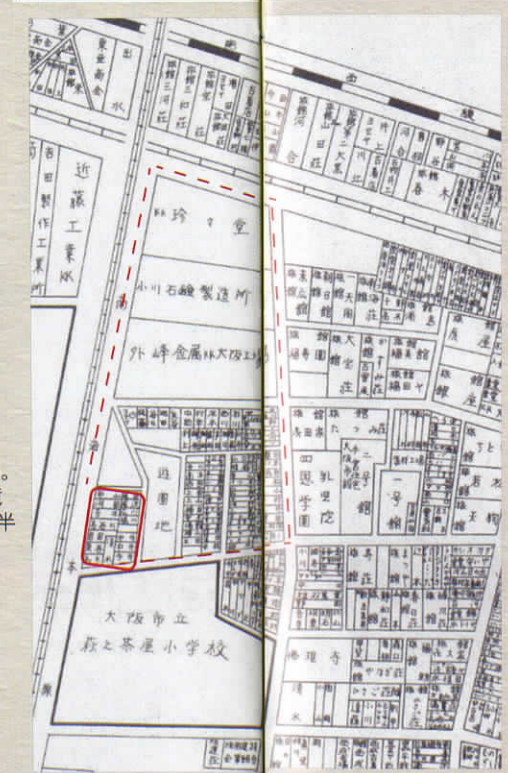
1953年撮影の空中写真では、周辺で戦災復興事業が始まり、なじみある現在の区画が見え始めている。その都市計画の中で、萩之茶屋小学校の北の空地は、公園として確保されている。南海高架の西と今宮中学校の間の道路予定地には、帯状に狭小新築建物が密集している。(大阪市所蔵空中写真)

上写真は、南海高架から東方面を見ている。現在の三徳寮にあたる四恩学園と屋上ドームが印象的である。その手前に戦後直後にできた長屋街、間に遊園地を挟んで、焼失を免れた長屋と、一番手前に戦後の新築建物がみられる。ちょっと向こうの長屋が現在の第2住宅、手前の長屋が現在の第1住宅エリアにあたる。この後、両エリアに住宅改良事業がかけられる。1960年代後半の撮影と思われる。(中島敏氏撮影)



1960年封切り『太陽の墓場』の一場面で上写真の右側にあたり、住宅地図からすると右側は金属工場、真ん中の建物は、左端に見える南海高架の東側の道路予定地に、暫定地に建てられたものと考えられる。

スポット回顧風景
in 釜ヶ崎/あいりん地域



上住宅地図は1956年のものであり、ここに遊園地という表記が確認できる。北側の3つの工場と、遊園地まわりの密集した木造住宅街が見て取れる。赤点線は、現在のセンター及び第2住宅のある敷地である。



上写真は、1962年封切の映画シーンで、牛(くだん)の遊園地で撮影されている。遊具も見られる。右奥の建物あたりが、左下写真の『太陽の墓場』のロケ地となる。現在の労働福祉センターと第1住宅のエリアにあたる。(1962年の日活映画『太陽の墓場』より)

作成の水内俊雄・
大阪市立大学都市
研究プラザ教授→



「地元の日本一」シリーズとは別に、「スポット
懐古風景シリーズ」を時々組ませていただきます。

西成情報
アーカイブ協力

萩之茶屋小学校付近のまちなみ
半世紀以上前の写真から

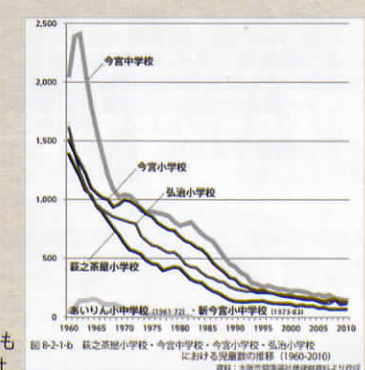
発見1:かつての仏現寺公園の謂われの寺屋根が！
発見2:萩之茶屋小学校の50年ほど前、溢れる児童！



左写真は、1964年ごろに撮影された。仏現寺の寺屋根が見え、遠くに西成署や海道消防署の火の見櫓が見える。寺は移転し、その後下写真の左真ん中に見える萩之茶屋北公園となった。



上2組の写真は、1960年代後半ごろの萩之茶屋小学校の入学式の光景である。南門から見える市街はまだ低層建物が多い。校庭での入学手続きでは多くの児童父兄であふれている。右グラフのように、既に減少しているとはいえ1965年でも1000人弱の児童がおり、一学年4、5クラス編成であったと思われる、下写真の受付テーブルもそれくらいの数と思われる。(いずれも上畑恵宣写真アーカイブより)



ひえー！
こんなに減った
のか



四恩学園から撮ったと思われる、現在のセンター南部分の雪景色風景。左側に萩之茶屋小学校が見え、その右に2階建て長屋が、そして遊園地を挟んで手前に戦後に新築された住宅街が見える。奥が第1住宅、手前が第2住宅にあたる。1964年ごろの撮影と思われる(上畑恵宣写真アーカイブより)。

この風景の思い出や、写真などあれば、編集部までご一報を！

スポット回顧風景

in 釜ヶ崎/あいりん地域

〈続〉今、ここによみがえる、あいりん総合センター敷地周辺のかつての風景

～同センター北側の1960年代の光景～



やっぱり、すごい資料やんカア～!

「地元の日本一」シリーズとは別のシリーズです。資料は注記のない限り、上畑恵宣言写真アーカイブを利用しています。



←作成の水内俊雄・大阪市立大学都市研究プラザ教授



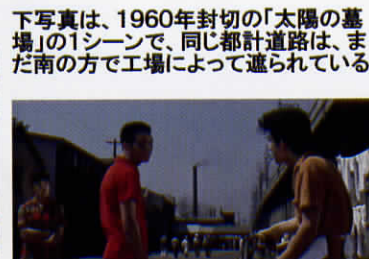
上写真は、現在のセンターの正面、尼崎平野線道路に向かった1965年ごろの光景である。1962年にできた西成労働福祉センターの看板が印象的である。対面の簡易宿所は、1941年に建てられたもので、戦災を免れた。



上写真は、1967年ごろの現在のセンターと南海高架の間を南北に走る都計道路でほぼ奥の方まで開通している。



センター東側の道路にあたる。ちょうど社会医療センター前くらいの光景である。



下写真は、1960年封切の「太陽の墓場」の1シーンで、同じ都計道路は、まだ南の方で工場によって遮られている。

表6 1975年度までの大阪市改良住宅事業一覧

地区名	地区指定年月	地区面積㎡	不良住宅戸数	不良戸数割合%	住宅戸数密度戸/ha	改良住宅建設予定戸数	除却戸数
YT	1960.11	41,300	297	87	99	322	292
SM	1960.11	9,100	100	83	158	178	100
NH	1960.11	6,177	86	89	171	97	86
KS	1960.11	10,106	65	80	80	159	66
IK	1960.11	4,135	63	81	202	103	59
KH	1960.11	3,002	50	100	167	50	50
鶴町	1965.1	25,960	80	100	141	100	80
IK第2	1965.11	1,451	120	82	185	289	120
八幡屋	1965.11	3,242	50	100	154	80	50
KS	1965.3	9,524	88	100	109	120	88
KS第2	1966.3	10,477	126	80	150	160	125
愛隣	1967.12	15,544	385	96	338	342	385
AS	1967.12	8,032	126	80	208	266	284
樺	1967.12	6,813	92	87	159	139	92
MS	1967.3	17,916	144	93	148	211	144
池島	1968.12	101,000	687	98	88	510	687
AK	1968.3	5,924	51	82	104	81	51
HN	1969.2	17,200	150	81	111	188	149
小林	1970.1	75,600	987	97	144	1,000	530
AS第2	1971.2	32,107	284	81	122	459	284
IK第3	1971.2	15,478	229	90	188	409	228
HR	1973.3	20,117	238	80	161	240	238
AH	1975.3	24,327	192	100	91	242	192
SM	1975.11	16,100	179	83	155	249	179
南恩加島	1976.1	6,300	80	100	126	49	80

資料：大阪府建設部『76 住宅年報』に筆者加筆修正。ゴチは、順位規模3位までの地区を示している。

◆マンモス職安つくる 労相表明 あいりん地区視察

◇朝日新聞1967年4月1日夕刊

あいりん地区の公道で毎日6000人にのぼる青空労働市場が開かれていることは、人間尊重と社会開発の基本理念から放置することはできない。45年に大阪で開かれる万博博工関係の労働力確保、港湾労働者の就労秩序を近代化するために、同地区にマンモス職安定所をつくり、総合福祉施設として「西成労働福祉センター」を建設する。



左住宅地図は、1969年のものである。赤枠がセンター等の建設される最初の事業エリアで、緑枠が、尼崎平野線道路拡幅の部分となる。青枠が、移転する前の西成労働福祉センターや、大阪で最初の改良住宅であった市営今宮住宅などが建っていた市有地である。

このセンターは移転し、今宮住宅も撤去され、一部住民は、萩ノ茶屋第一住宅に移居した。その後、三徳寮が建設されるまで、しばらく更地となった。今のシェルター敷地でもある。

下には、仏現堂、現在の萩ノ茶屋北公園敷地も見える。

◆あいりん対策の“基地”決る 労働福祉センターの建設予定地 新今宮駅前の一帯 13階建高層ビル 来年早々に着工

◇朝日新聞1967年10月6日

このセンターの位置は、あいりん地区対策の方向にも大きく響くので、昨年夏から大阪府、市が協力して捜してきたもので、今後あいりん地区が抱える労働、福祉面のすべての対策は、ここを基地として集中的に進められることになる。大阪府、市は労働、建設両省へも報告、釜ヶ崎の分散論を主張していた地元の市議にも事前の了解作業をはじめた。



上のパノラマ写真は、1966年ごろの早朝、開設されて間もない当時の国鉄新今宮駅ホームから、南を望んだものである。既に地下鉄が走っている都市計画道路の尼崎平野線を右から、南海高架、珍々堂、戦後新築の木造2Fの当時ののはやりのタイル張り壁面の玄関をもつ簡易宿所、そして左側に戦後建設の商店家屋が、拡幅予定地にまだ存在していた。

右写真も含めて、早朝の労働者の歩く方向は、右側、南海高架より西側の青空市場であったことがよくわかる。



上写真は、右写真と同じところから、西方面を撮っており、市営第1住宅の鉄骨が組みあがっている。手前は後に建設される第2住宅建設地にあたる。



上写真は、建設途上のあいりん総合センター、1969年ごろに撮られたと思われる。上写真は、南西の当時の西成労働福祉センター（現在の三徳寮あたり）から撮っている。右上は、この事業に先立ち、都市計画道路の建設に伴い、南海高架下に移転する珍々堂などの移転通知ビラである。

左写真では、建設途上のあいりん総合センターを右手に、前の尼崎平野線道路が部分的に拡幅され、左手には木造2階で戦後新築された簡易宿所の一部が中層化している状況が見て取れる。左奥のほうには、拡幅未着手部分の家屋が見える。1969年ごろの写真と思われる。

へえ、分散論もあったの?

また建設省と大阪府は、このセンター建設を機に、あいりん地区一帯の住宅改良にも手をつけ、老朽建物は政府の住宅改良事業で建て直すなど、相次いであいりん地区対策を実行に移すことを考えている。

◆姿を消す「分散論」

国府市の労働福祉センターがあいりん地区に建設されることになったため、スラム対策としての「分散論」は姿を消すことになり、あいりん地区は「労務者の町」として整備されていく方向が決った。



上下の写真(上1972年、下1968年)から、センター建設前後の寄居の移動に伴い、送迎のバスなどの駐車場が変ったことが如実にわかる。尼崎平野線拡幅前は、上写真のように、正面のほうにもバスが二重、三重に駐車していた。

下写真は、南海高架より西側の道路拡幅予定地にバスなどが集中的に駐車し、まさしく青空市場であった。

左上の新聞記事にあるように、毎朝6000人ほどが、いったんここに集まり、現場に向かったのである。1970年以降は、そうした機能はセンター内に集約される。



写真の威力ってすごい!

な〜るほど。だから三角形に！そして、70年代に大きな利用転換があった！ ～三角公園（萩之茶屋南公園）の変遷～



↑作成の水内俊雄・大阪
市立大学都市研究プラザ
教授



公園のあり方論議に大いに
役立つのちやうかア〜

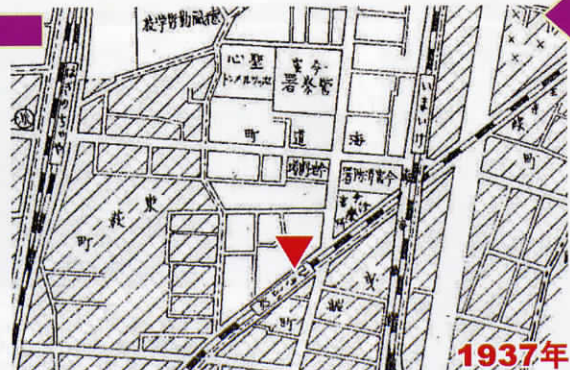
地域内の他の公園も次号以降で「取り組んで」
みたいと思います。思い出の写真、とっておきの
写真などあれば本紙編集部まで連絡ください。

2万分の1地形図・大阪東南部、西南部より



1942年

大阪市所蔵空中写真1942年からは、戦災で焼失前の長
屋の密集状況が見てとれる。白枠内北側は、戦後は焼け
跡からの土地区画整理事業地区となった。



1937年

大阪市社会部の「密住地区調査」報告書掲載図、で白地
の部分がその調査対象地であった。公園エリアの東、現在の
ふさとの家には、今宮診療所が、その北には今宮消防署、
今宮劇場が見える。



1928年

右地図より7年後、完全に市街地化した状況が見
え、公園エリアは長屋建築となっていることがわか
る。大阪市所蔵の空中写真1928年より。



1921年

右地図よりわずか13年後、急速に都市化が進み、
多くの民家が建築され、公園エリアにも民家の建設
された状況が見て取れる。1万分の1地形図「大阪
西南部」より



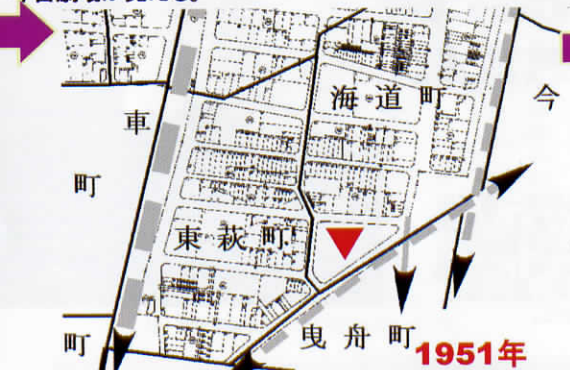
1908年

三角公園の三角形を決定づけたのは、南海天王寺線が
1900年にこの地をほぼ45度斜め北東に、天下茶屋駅か
ら天王寺駅まで開通したこと端を発する。この当時は
曳舟駅や萩ノ茶屋駅ができたばかりで、公園となるエリ
アだけでなく、両駅周辺には民家はほとんどなかった。



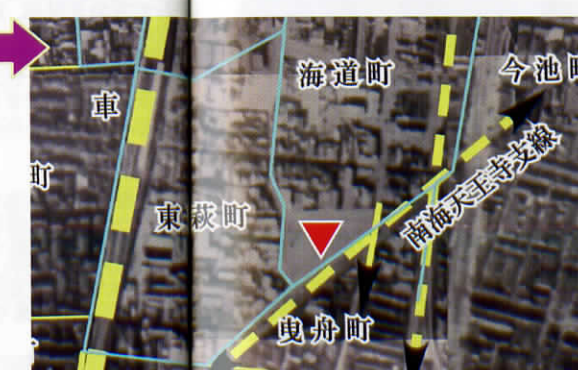
1948年

空襲後、3年後となるが、公園エリアではその後の戦災復
興事業の始動待ちもあり、まだ空地のままである。萩ノ茶
屋商店街では、戦後建築された店舗などが見られる。
米軍撮影空中写真より。



1951年

戦災復興事業による土地区画整理が敷かれ、公園地として
整備されることが決定し、まさしく三角公園の形状が確保された。



1953年

土地区画整理の新しい街区プランにそい、家々が復興し始め
た。公園用地は確保され、空地のままとなっている状況がよく
見て取れる。都市計画公園として萩ノ茶屋南公園が正式名称
で、東萩公園とも呼ばれたようである。背景の空中写真は、『航
空写真地図大観』1953年より。



1956年

1956年の住宅地図上では、登場した三角公園は運動場と記されているところが注目さ
れる。家々が新築され、新しい街区が市街地化した様子がよくわかる。

三角公園の西南隅から北東側を見通すアングルで、左写真は1954年（三條正博氏撮影）、右は
1981年の「たそがれコンサート」時の写真（上畑恵宣氏撮影）である。1954年の写真は、まだ空地
として確保され、整備前の公園エリアの情景がよくわかる。いずれも背景に南海天王寺線の電
車と、消防署の火の見櫓が見える。



<http://kamamat.org/nen-pyou/1970/nen-1970-1.html>

松繁逸夫氏の
webから転載した
ものであるが、氏
によると1970年
過ぎの撮影写真
で、設置施設や
物の移動はいつ
ころか、遊具は
いつごろなくな
ったのか？と書
かれている。

三角公園の東側か
ら同じアングルで撮
影した写真で、上は
1981年（上畑恵宣
氏撮影）、下は1970
年前の撮影と思わ
れる（もと市更相保
管写真）。この10年
の間に、公園にある
設置物が大きく変
わり、また利用のさ
れ方や利用者も変
わったものと思われ
る。



児童遊園地によくある遊具
があるころの三角公園の情
景であり、左は1965年ごろ
（上畑恵宣氏撮影）、右は
1970年前に撮られたものと
思われる（もと市更相保
管写真）



上写真は、映画「当りや大判」1962年日活封切の主演、長門裕之
が三角公園の南東側、天王寺支線沿いを歩いている情景である。
敷地は確保されている公園の周辺道路の、整備途上の状況がう
かがえる。個人的には、戦後直後に譲渡された国電モハ63形で南
海1501形となった電車の走っているのが懐かしい。



こんな映画ロケがされて
たんやあ



上写真は、松竹1960年封切「太陽の墓場」における、三角公園でのロケシーンである。敷地がコンクリ
ートで固められ、植樹もされ、公園らしい雰囲気が出てきている。左手に二度登場しているのが川津祐介で、
右端で手を挙げているのがジャイアント馬場とよく間違えらえた羅生門綱五郎である。その向こうに消防
署の火の見櫓が見える。出典：水内俊雄（2001年）『地図・メディアに描かれた釜ヶ崎』人文研究 53-3 より転載

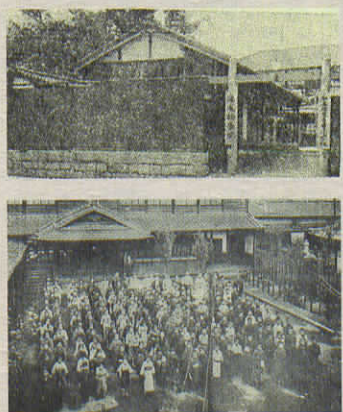
スポット回顧風景 in 釜ヶ崎/あいりん地域



子どもの問題には昔から奮闘
してきた地域だったのカー

クボタが創った小学校

今から100年前の大阪市では、貧しさのために小学校に通えない子どもがたくさんいた。そうした子どものために、資産家や起業家たちが私立の小学校を建てる動きがあった。その一つが、久保田鉄工所(現・クボタ、下パノラマ地図)の創業者**久保田権四郎**が創立した**私立徳風小学校**だった。

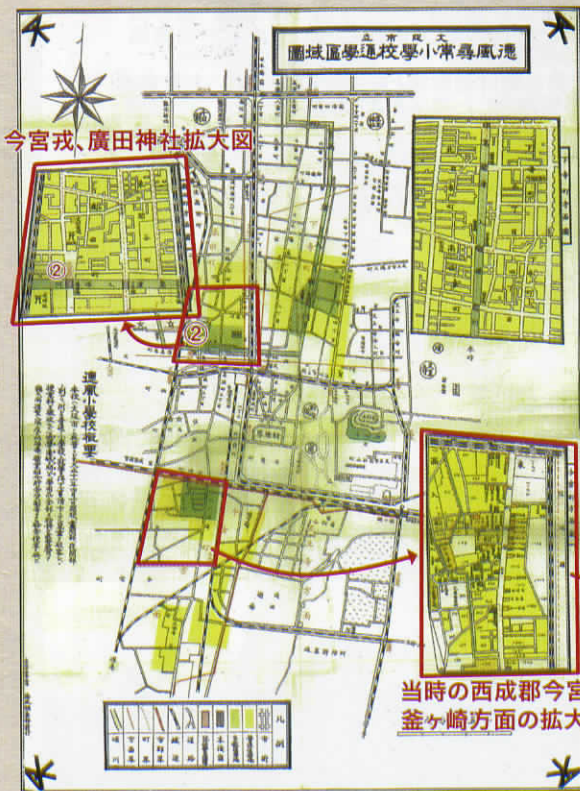


徳風小学校



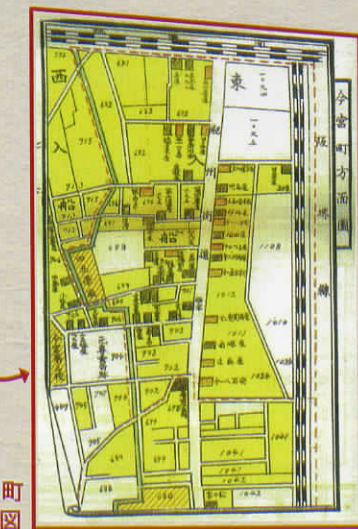
1923年 大阪市パノラマ地図

徳風小学校は南区(現・浪速区)の**南高岸町**で1911年に産声を上げた(上写真、上パノラマ地図①)。実業家が私財を投じた夜学校としては早い方で、マスコミも頻繁に両校の教育内容(林間学校や転地療養など)を伝えるようになる。



当時の西成郡今宮町
釜ヶ崎方面の拡大図

廣田町期の徳風尋常小学校の通学区域図(1924年)で、黄色や黄緑が通学者の多い地域を指す。黄緑はより多い地域として描画



1924年
徳風尋常小学校の通学区域図

創立当初から私立として運営されてきた同校は、1921年に市へ移管され、ほぼ同時に、今宮戎神社の北側の**広田町**に新校舎を設けて移転する(1923年大阪市パノラマ地図②、及び1924年通学区域図②)。その時の校区を示したのが上の図である。黄色で記された地区がすべて通学区となる。

1世紀前に地域の貧困児童たちを受けとめた徳風小学校 就学支援の源流から未来を考える ～ 現・西成市民館一帯の戦前・戦後 ～



水内俊雄
大阪市立大学
都市研究プラザ教授



吉村智博
大阪市立大学特別研究員、
西成情報アーカイブ学芸員

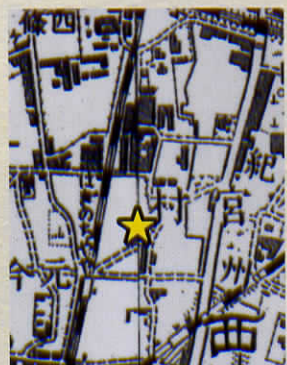
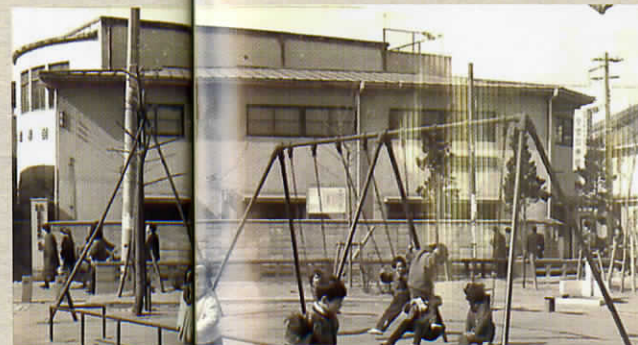
そのわずか後の1927年、**市立徳風勤労学校**と校名変更していたが、「勤労学校」とは、通常科目のカリキュラムよりも労働時間を重視する各種学校だった。すでに小学校ではなくなっていた。

勤労学校の釜ヶ崎への移転

やがて1938年になって、それまで通学区の一つだった**西成区甲岸町**に移転する。新校舎を建築し、日雇い労働者が多く暮らす釜ヶ崎へ移転することになったのである。



西成市民館時代の講堂
ファサードの曲面が印象的な講堂は、1955年から西成市民館として活用。手前の現 四角公園には子どもが大勢みられる(旧市更相所蔵写真より)



1908-09年
2万分の1地形図



1928年
空中写真

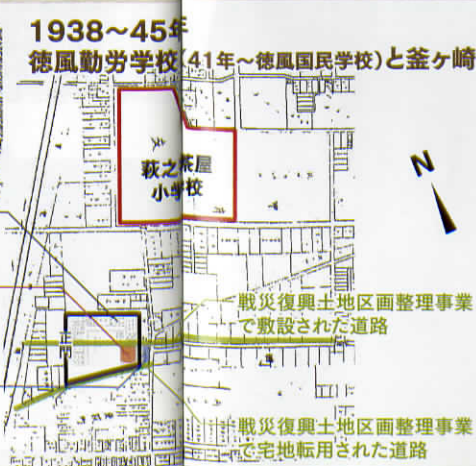


1929年
1万分の1地形図

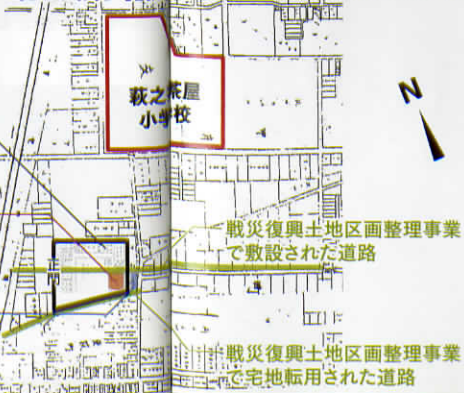
この敷地(図中★)は、周辺が宅地化する中、長らく田畑であったようだ。現在は、サポーターハウスの集中するところでもあり、勤労学校の移転で、当時から福利的要素の高いエリアであったようだ。



徳風勤労学校
→徳風国民学校
徳風勤労学校「講堂」
→西成市民館
済生会今宮診療所



1938~45年
徳風勤労学校(41年~徳風国民学校)と釜ヶ崎



簡易宿舎の一角
→愛隣会館附属授産所
→あいりん保育園(託児所)
→わかさ保育園

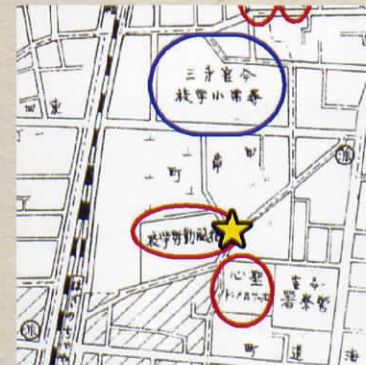
戦火にも耐え、新しい役目が

1945年3月の空襲で、釜ヶ崎は鉄筋の建物以外、全焼してしまう。その後の戦災復興の区画整理で、農道あがりの小道は南北に整然と整理されたが、講堂は南側の斜めの道に面していたため、左写真のように、やや斜めに建っていた。建物自体は、1970年の市民館の新築まで残すことになる。

現在の福利ゾーンともいえるこのエリアは(日本語学校も進出)、勤労学校、国民学校から済生会今宮診療所や市民館と、仕事と学校、アフタースクールでのサービスを提供する空間としての遺伝子を有している。今後もこの遺伝子を生かしたい。

※1955年、市民館として復活するまで
未利用のままであった。

知らないこと
ばかりやわ



1939年
大阪市社会部『本市における
密住地区調査(No.246)』



聖心セトルメント

さまざまな先人たちの努力が
あったのよね!



1940年前後にこの田畑地は宅地が変わっていることは下の1942年の写真で判明する。

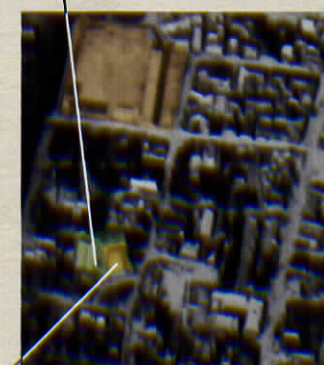
徳風小学校「講堂」周辺の変遷



1942年
空中写真



1948年
空中写真



1952年
空中写真

講堂(1955年4月から西成市民館に転用) 29